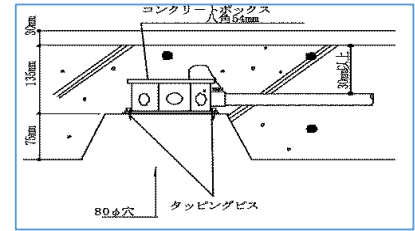


施工段階		躯体工事		4	設備工事：	シート番号 4-2
電気	空調	衛生	その他		デッキスラブのコンクリート打込工事	
○	—	—	—			

ポイント

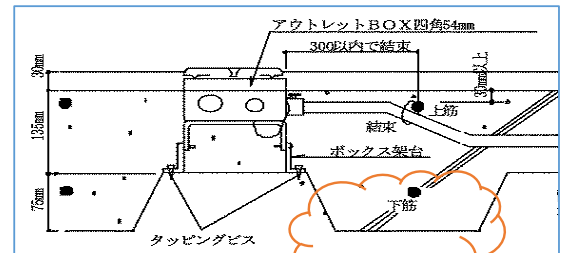
■打込配管を行う際の4つの耐火要求性能

- 1) 耐火区画機能
- 2) 火災時の構造耐力
- 3) 打込配管による延焼・漏煙防止
- 4) 支持梁の耐火性能確保



1)、2)については、打込配管によるコンクリートの断面欠損を差し引いた有効コンクリート厚さが、火災時の構造耐力上、耐火区画性能上必要な厚さを確保する必要があります。特に一方向性スラブの場合、コンクリート厚さが比較的薄くなるため耐火構造上問題になる恐れがあり、十分なコンクリート厚さの確保が必要となります。

3)、4)についてはコンクリートスラブに埋設されることから、必然的に要件を満足している場合が多いようですが、打込配管下側のコンクリート厚さが40mm以上確保されていなければなりません。



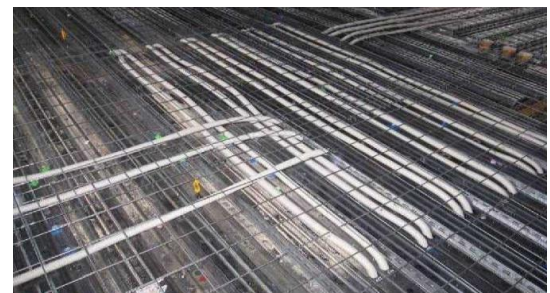
デッキ谷部に配管しない!

先輩アドバイス

- ・デッキ谷部に配管してはいけません。あと施工アンカー等による配管損傷の恐れがあります。

チェック項目

- コンクリートのかぶり厚さは十分取れていますか。
- 配管ルート・交差の事前確認は行いましたか。



合成スラブデッキ電気配管不具合事例 (50φと配管が太く、鉄筋、デッキと接している)

失敗すると...

- ・耐火性能確保の為、耐火被覆を施すこととなります。

電路床面からデッキ山部までのかぶり厚さを15mm以上（2時間耐火構造）確保し、吹付けロックウールを下面のデッキ谷部に吹付け厚20mm、吹付け幅75mm+電路幅+75mmで吹き付ける。



共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	—	—	○	—	—	—	—	—	—
備考	参考文献：デッキプレート床構造設計・施工基準-2004、日建連/鉄骨専門部会						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂	2023年3月1日	